

# ネパール国際セミナー報告

小林威文\*

## 1 はじめに

ネパールの首都カトマンズにおいて、平成16年7月26日から28日にかけて、水資源省治水砂防局（DWIDP）主催、JICA後援の国際セミナー（International Seminar on Water Induced Disaster Prevention）が開催されました。

ネパールは、8000m級のヒマラヤ山脈から100mのガンジス平野まで、地形的変化が著しく、世界でも類を見ない土砂災害の多い国です。セミナー参加時期は雨季であり、セミナー参加前の7月13日にもモンスーンによる豪雨によって引き起こされた洪水と地すべりにより14地域で、死者41名、行方不明者8名、被災世帯13,000世帯という災害が発生しました。ネパール上空からも山麓の至るところで溪岸崩壊及び溪流からの土砂流出の状況が発生していることが見受けられました。

## 2 ネパール国際セミナー

ネパールでは、ネパール政府及び地域社会による治水砂防を促進するため1999年から「自然災害軽減

プロジェクト（DMSP）」が実施され、以下の主な4つの成果が達成できるよう活動が行われています。

- ネパール政府及び地域特性に応じた防災対策・工法が構築される。
- 治水砂防局（DWIDP）の技術支援により災害復旧活動が促進される。
- 災害情報及び防災技術の共有化が促進される。
- 政府関係者及び地域技術住民の防災に関する意識が高まる。

プロジェクトによる約5年間の活動成果を広くアピールするとともに、同じような課題を持つ国々が治水砂防に関する情報の共有化を図ることを目的に、治水砂防国際セミナーが開催されました。

参加国は、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、バングラデシュ、日本の6カ国で、200人近い出席者の中で行われました。

セミナー開会式では、レグミ治水砂防局長より歓迎の挨拶があり、続いて主賓のシャルマ水資源大臣より開会の挨拶がありました。

挨拶では、例年の洪水・土砂災害の発生により多くの人命・財産が失われており、ネパール政府とし



図1 ネパール王国



写真1 カトマンズ市内

\*（財）砂防・地すべり技術センター砂防部技術課参事



ては治水砂防分野が貧困削減に綿密に関連していることを認識しており、災害復旧や土石流・地すべり等の対策に重点を置いて、持続的かつ長期的な防災対策に取り組んでいく上で、技術移転を実施してきたことなど日本の技術協力による支援を、高く評価されていることなどが述べられました。

続いて、友松NPO法人ネパール治水砂防技術交流会理事長による松下忠洋日本-ネパール友好議員連盟事務局長・衆議院議員からのメッセージが披露されました。メッセージの中で、

- (1) ネパールと日本の治水砂防分野における技術協力は、松下議員自身が、1977年にネパールにおける自然災害防止対策の現状を調査したことに端を

発すること、

- (2) 今般、プロジェクトを総括し、かつ各国の防災担当者等出席のもと、本セミナーが開催されることに、ネパールと日本の技術交流の橋渡し役として当初から関わってきた者として大変感激していること、

- (3) 2004年5月、松下議員が訪ネし、ギャネンドラ国王に謁見した際のエピソードに触れられ、ネパールと日本の友好の歴史、政治、経済などの分野につき国王と懇談した中で、松下議員から国王に対し、ネパールが美しい自然を有する一方で、自然の厳しさにより毎年多くの災害が発生し多大な被害を受け、ネパールが発展していく上での大きな障害となっており、災害を軽減していくことが当国の発展のために重要である、と意見を述べ、国王も同意された、ことなどが述べられました。

さらに続いて、神長在ネパール全権大使の挨拶、吉浦JICA事務所長の挨拶、バクタライ国際セミナー実行委員長（水資源省次官代行）のご挨拶があり、主催者（DWIP）側を代表して、森山チーフアドバイザーより御礼の挨拶があり、開会式は終了しました。

この開会式の模様は、ネパールテレビはじめ3局で当日の夜のニュースで報道されました。また、翌日の新聞でもカトマンズポスト紙などの英字紙3紙、ゴルカポトゥル紙などネパール紙2紙でも取り上げられ、報道されるなどネパール国での関心の高さが伺えました。

26日の午後より発表会が2日間にわたって行われました。

セミナーのテーマは

- ①治水砂防技術
- ②住民等の防災に関する啓発活動
- ③大学教育等による人間開発
- ④防災情報の共有化

に分かれ、24の発表があり、日本からは、杉浦信男国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター長、小林幹男国土交通省河川局砂防部砂防計画課課長補佐、川罵伸哉大阪府西大阪治水事務所工務課企画設計グループ主査、嶋丈



写真2 ネパール国際セミナー開会式



写真3 ネパール国際セミナー発表会

示（財）砂防・地すべり技術センター砂防課課長代理、中国から栗城稔水利人材育成プロジェクトチーフアドバイザー、フィリピンから加納敏行治水砂防技術力強化プロジェクトチーフアドバイザー、インドネシアから渡部文人火山地域総合防災プロジェクトチーフアドバイザーが発表を行いました。

会場は、自国の砂防技術を熱心に語る発表者、他国の情報や技術を取り入れようとする熱心な参加者が多く見受けられ、また活気ある雰囲気の中で、発表ごとに多くの質問が出ました。

26日夜に開催されたセミナー関係者による歓迎パーティーでも盛んに意見交換が行われ、ネパール政府関係者からは関係国によるネットワーク構築に向けた土壌が作られ、非常に有意義な「場」になったとの感想が述べられていました。

最終日の28日には、セミナーの総括のとりまとめ、提言等がまとめられ、発表されました。

最後に、閉会式が行われました。外国からの発表者を代表して、インドネシア砂防センターのハリヨノ氏が挨拶され、セミナーが大変有意義であったとの言葉に盛大な拍手が贈られ、国際セミナーは終了しました。

### 3 おわりに

治水砂防に関する共通の課題を有する国々が集まりセミナーに参加することによって、治水砂防に関する情報の共有化を図ることができ、治水砂防技術の促進が図れたのではないかと思います。2004年もネパールをはじめ、各国々においても土砂災害が発生し多くの尊い命が奪われました。今後、セミナー参加国をはじめ、各国において土砂災害の防止・軽減が図られるとともに、安全・安心に暮らせる社会になることを期待します。